

「贈る言葉」

3月は「卒業」の季節。
何かと町の表情も寂しげ。

今から4年前、僕は川西町に移住した。
その理由は、おそらく無かった。

何かしら現状を脱するために、出来るだけ
遠くへ、出来るだけ知らないところへ、何と
か生きていけそうなところへ行ってみたく
なった。

移住するにあたり、決めていた事がある。
それは、「現状を受け入れる事」。

そう決めた理由は、引越し当日に、父がさ
りげなく言った一言があったからだ。

移住前夜、荷造りをしている僕に、寝室に
向かう父は「強く生きろ」と言った。

27年間、込み入った話をしたことがなかつ
たので、正直、驚いた。
そして、はじめて言われた親の一言は、僕
に一種の道徳的概念となった。

川西町での暮らしがはじまると、父の言葉
は、親でなければ人に言わない言葉だと
実感した。

現状を受け入れる人は強くなくてはいけな
い。「卒業」と聞くと、いつもその言葉を思
い出す。



あの協力隊は今!?

このコーナーでは、元川西町地域おこし協力隊の
藤貴旭(ぬりたかあき)が
任期後は何をしているのか?をお伝えします!

餅つきが有名な米沢市千眼寺

3月号「センチメンリズム」

「受験センチメンタル」

2月末日、米沢市窪田町にある千眼寺を訪れた。この時期にしては快晴で、上着を着ないで歩くと、ほどよい肌寒さが妙に心地よい。近くを流れる最上川を通過した風は、なぜか懐かしい匂いがした。

そんな季節、時折り、センチメンタルな気分になる。思い出すのは学生時代。3月といえば受験の束縛から一気に開放される時期。かつては僕もそうだった。

もう10年以上も前のこと。なぜ大学に行くのか?何を学ぶのか?将来何になるのか?嫌になるほどの「なぜ?」という重圧を背負いながらの受験勉強。本当に辛かった。

自分で確信を持ってない事に必死にならなければいけない難しさ。「なぜなぜなぜ?」と常に降りかかる疑問に打ち勝たなくてはいけない。つまり、自分を意志の強さで律しなければいけない。

思いおこせば、僕の人生で一番勉強した時期は高校3年の夏から受験までの数ヶ月だ。脚色なしで本当の真実を語ると、受験勉強を始めた高校3年の夏まで、ギターばかり弾いていたので勉強はしなかった。授業中もギターのことを考えていたので、授業にもついていけなかった。その気もなく、学年で一番下のクラスにいた。テストも数学と物理と英語以外は赤点(40点以下)が多かった。僕がこの世で最も興味のない科目「古典」では、適当に書いた○×問題すらも全て間違い「5点」という学校史上最低点をマークした。

中高一貫の進学校であるため、担任の先生は中学から4年間同じだった。そのため、僕のことをずっと気にかけてくれた。面談の時、「やればできるんだから、進学コースに行け。ギターは大学に入ればいくらでもできるから」と言われたが、その甲斐なく卒業するまで最下位のクラスのままだった。

しかし、ある事がきっかけで、僕は受験勉強に邁進することになる。

当時、勉強するわけでもないのに予備校には通っていた。「お前は飯のタネ」とよく言われた。高校3年の夏は受験勉強に大切な時期と言われている(らしい?)。予備校の友達の雰囲気もなぜかピリピリしてきた。その中で、見た目は派手だけど、しっかり者。見た目もカワイイギャル風の女子がいた。言うならば下町娘だ(笑)。その子はやたらモテた。受験間際の恋愛ほどやっかいなものではなく、その予備校に通う多くの男を悩ませた。

これは本当の話である。その予備校に通う男友達A君は、やはり、その女子が好きだった。ある日、その子は「ゆず」(ミュージシャン)が好きであることを知ると、そのコンサートと一緒にいこうと誘ったらしい。そうしたらOKの返事。ウキウキ気分のA君は、僕が予備校に通うたび、その話をしてきた。無事に「ゆず」のコンサートを観て、いよいよ告白の時、お互い受験生だから、合格したら付き合いませんか?というようなことを言ったらいい(本人が詳しく言わないので詳細不明)、そうしたら… (裏へつづく)

>つづき

ダメだったらしい(悲)。その後、A君は数週間、元気がなかった。休憩時間に習慣になっていたコンビニへの買出しも一緒に行かなくなった。が、受験が近くなった頃には、再び仲良く、励ましあう仲に戻った。その女子との関係もフレンドリーに。そして、持ち前の明るさで勉強も頑張り、大学にも合格。めでたし。めでたし。と、A君の話をネタにしてしまい。申し訳ない気持ちもあるが、何を伝えたかったのかといえば、こういうこと。

実はこの二人。東京都内でも有名な進学校に通う生徒だった。もちろん、別々の高校だが、同じ歳の高校生とは思えない、どこかシッカリしているところがあった。高校生というのは勢いに任せて行動してしまいがち。が、この二人は何があっても「自分は受験生」という意志の強さを貫いた。高校生活を楽しみながら、着々と成績を上げてゆく2人を横目に、僕はその「強さ」と、どこかドライな姿に僕は刺激を受けた。考えてみれば、僕も同じ予備校に通う受験生。なぜ、こんなにもやる気がないのか？自分でも不思議だった。しかし、今思えば、その理由は明確。僕は志望校どころか、大学に興味がなかったのだ。

僕の考え方は至極単純なものだ。自分の将来に保険をかける事をしない。なぜ、いい大学に行くべきなのか？それは、いい大学に行けば、いい会社に入れて、いい将来が待っている。これは、事実ではありませんが、真実ではない。いい大学に入っても中退するかもしれないし、就職もしないかもしれない。人生は思うようにはいかない。それは当時から僕が感じていた事だ。

しかし、理由はどうであれ、チャレンジもしないで人生は語れないと感じた僕は、自分の能力を試してみたくなった。それは「好きなことしか頑張れない」自分への挑戦だった。その標的となったのが受験勉強だった。

(お待ちかねの?)後日談。受験も終わり、予備校メンバーで打ち上げをすることに。メンバーはA君、モテ女子、僕&同じ学校の同級生、計4名。そして、僕もモテ女子と仲良くなり、感じのいい人でモテる理由がわかった。また、みんなで集まろうということで連絡はA君がすることに。しかし、人生はホント上手いかならないものだ。集まりの当日、何とA君は僕に連絡をくれなかった(ホントの話)。A君はかなりの策士で、後日、改めて告白したらフラれたと言った。もちろん、僕はそれより、ちゃんと連絡しろと言いましたが(笑)遠く離れた米沢に、あの当時の面影はない。しかし、風の匂いを感じる季節。真剣に何かに打ち込んだ事、自分の感情が揺らいでぶつかっていた頃の思い出が、10年以上過ぎてても大きな存在でありつづける。今頃、みんな、何してんだろう？



> 思いついたことツイート!!
今日は金曜日、明日は土曜日、
久しぶりの休み、社会人同士は
休日の予定を合わせるのが難しい、
小方さんのばあちゃんがつくる
うどんがうまい。いも煮もうまい。味付けが絶妙。
チョコ菓子ばかり食べていたら甘さを感じなくなった。
左耳の聞こえが悪い。
社会人と学生なら社会人のほうを選ぶ。
ひょうひょうと生きてると、よく言われる。
感情はあまり出さないほうかも。
TVで赤羽のおでんや特集していた。
都会暮らしも大変だ。
置賜に協力隊が増えるらしい。うれしいもんだ。
都会から田舎に移住する若者が増えてるらしい。
結局、置賜にきてよかった。
土地のせいにするのはよくない。
自分のことは保守的になる。
咳がとまらない。おなか痛い。
わらじ職人のおじいさんが、
お気に入りのギスカゴを作る人だと知った。
最近、川西で過ごした日々が懐かしい。
米沢の暮らしも慣れてきたかも。
ホントに色んな人がいるなど、よく思う。
ラインをしてないと連絡が遅れるらしい。
チャットを思い出す。
ケータイばかりチェックするのは苦手。
作曲しても気に入ったものがない
なぜかいまいち。アジフライが好きだ。
つくづく、人と協力して仕事をするのが下手だと
思う時がある。カレーの中辛は辛い。
中華料理はうまい。黒酢がうまい。
やきとりが好きだ。昼はパンを食べすぎ。
基本的に生活を楽しまたい。時には勢いが大事。



米沢駅前のレトロな店